

日本医療マネジメント学会第8回埼玉支部学術集会

開催趣意書

謹啓

晩秋の候、皆様方におかれましては、ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、日本医療マネジメント学会第8回埼玉支部学術集会の会長を仰せつかり平成31年（2019年）3月17日（日）に埼玉県さいたま市西区の公益社団法人埼玉県看護協会 研修センターにおいて学術集会を開催させていただくこととなりました。

日本医療マネジメント学会埼玉支部は平成年23年5月22日に設立され、初代支部長に国立病院機構埼玉病院の関塚永一（現名誉院長）様が就任しています。学会会員も医師、看護師等多職種にわたり、大変多くの方が参加されています。設立年からの学術テーマは、第1回「頼れる地域医療 安心のきずな」、第2回「より良い地域医療の構築にむけて」第3回「埼玉県の在宅医療を考える」、第4回「医療安全管理は如何に変わるのか」第5回「地域における感染対策の変遷」、第6回「医療の質の向上を目指す取り組み～ガバナンス・リーダーシップによる病院管理」、第7回「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える地域連携」でした。

この様にクリティカルパスから地域連携、在宅医療、医療安全、感染管理、医療の質向上など多くの切り口から、医療のマネジメントについて拡大されて来ました。

この度の第8回では、医療が病院完結型から地域完結型へと転換され、医療依存度の高い患者が地域に増加している中において、本来の地域包括ケアによる地域連携・在宅医療はどうあるべきかという視点に立ち、学会テーマを「地域医療活性化を目指した地域連携」としました。

いま、地域（在宅や施設）において、安心して安全な医療・介護の提供を実施していくためには、保健・医療・福祉が各々の垣根を越えた、多職種によるチーム医療の実践が必須であると考えます。今回はそのような実践の話題提供と特になんがん医療の地域連携と情報共有のシンポジウムを組み、討議していただく予定です。

この学術集会が、それぞれの立場からの情報発信の場となり、多くの関係者による議論が活発にできたらと考えております。

学術集会会長として、是非意義深い学術集会となります様最大の努力をいたす所存ではございますが、関係各位の格別のご賛同ご協力なくしての運営は困難であり、何卒本学術集会開催の趣旨をご理解いただき、ご支援を賜ります様お願い申し上げます。

謹白

日本医療マネジメント学会第8回埼玉支部学術集会

会 長 山本樹生（春日部市立医療センター病院長）

日本医療マネジメント学会 埼玉支部

支部長 原 彰男（国立病院機構 埼玉病院 院長）